

保育所を利用する保護者はまちのどこに  
問題を感じているのだろうか？  
—調査方法の一例の提示—

**東大 GLAFS院生**

**鈴木 勇人**

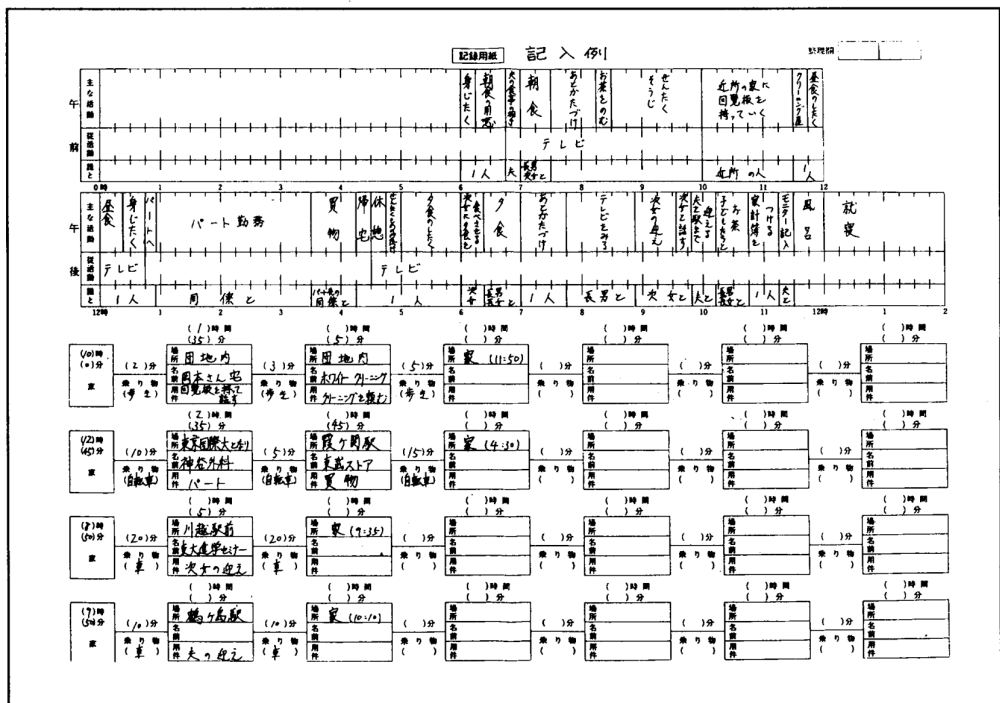
# 調査の目的と手法を明確化する

- 保育所までの送迎の問題として、①道路の安全の問題、②送迎の担い手の問題にフォーカス（前回）
- 前回の私の発言「保育所の保護者（利用者）はどこを通っているのだろうか」
  - 保護者の方は保育所等への送迎でどこに問題を感じているのだろうか？
  - 移動経路上のどこに居場所、預けられる場所があると嬉しいのだろうか？
- 前回の調査法のご提案：実際の1日の行動経路を書いてもらって課題を探す
  - 本当はこの時間を減らしたい／増やしたい、この道・場所を使いたい／避けたいを探す方法としてよいのではないか？
  - 何人かに共通する要素があれば、まちづくりの一環として取り組むべきことが見えてきそう
- 今回のスライドでは、目的がこれでよいのか、具体的な手法としてはどんなものがありうるのか、例をお示ししてご検討いただく。

# 調査の手法

## いきなり具体例

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ の2本柱



第1図 活動記録の調査票（川越調査・主婦用記入例）

Figure 1 Format of activity diary for housewives at Kawagoe Survey

荒井良雄 1995. 生活行動の時間地理学的分析のためのデータベースシステムの開発. 人文科学紀要. 人文地理学 12 : 67-97.

この調査票のようにやる場合のポイント（と私が思うもの）

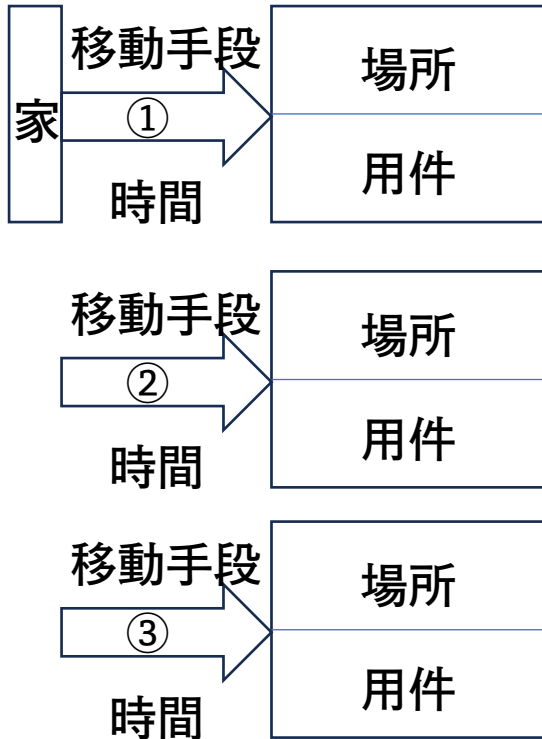
- 今回の調査では、生活時間すべてではなく、家から保育所、仕事場までの時間と経路についてわかれば十分なので、ある程度の範囲を削る必要がある
- 経路をもう少し細かく伺う必要がある→めじろ台の地図を添付して、ルートを記入してもらうなど。
- 本当は利用したい道や場所も地図に記入してもらうとまちづくりで取り組むべき箇所がわかりやすい。
- インタビュー形式で調査を行うならば、調査者が理解できない行動（例えば、いったん家に帰るなど、余分な動きに見えるもの）の意図をお伺いしてそれも活かせる。
- **個人情報** そのものなので取り扱いとは極めて厳重に行う必要がある。また、結果をまとめる際にも個人がわからないようにする、調査に応じてくださった方に最初に見せて問題がないか確認してもらうなどの対応が必要。

# 懸念点

- 何人くらいの方にお話を伺うことができるのか，調査手法
  - それによってまとめ方，得られる知見も変わってくる
  - 多くの回答が得られ，みんなが使いたいと思っているけど使いにくい場所，通りについては通園時間帯などに見回りなどの対応もありうる。
  - 対面でじっくりお話を伺える場合には，お話しいただいたことの中から想定していなかったような発見が得られると思われる。
- お互いに同じ町内にいることを考えると，答えにくい部分もある
  - 本来，このような調査では，回答者の属性（就業形態，就業地，通勤日数・送迎回数，家庭内での役割分担など）もお伺いして検討する必要があるが，少し難しいのではないか。
    - 属性によって懸念だったり希望される点が異なる可能性があるため，一定程度は必要。
- データの管理を厳格にするとして，どなたがやるのか．どの範囲で共有するか

# 例

時間軸に沿った行動の記述（朝何時頃に移動するのか？→見守り活動などの参考に）



←左のナンバリングにあわせてルートを描いてもらう

## 自由記述

- 通えたらうれしい通りや使いたい場所（地図に書き込んでもらう）
- 危険を感じる場所
- まちづくりで要望すること
- こんな場所がほしい